

学童クラブにおける自閉性障害児の統合保育のとりくみ

○西本絹子 常田秀子 浜谷直人 古屋喜美代 吉川はる奈#
(玉川大学) (和光大学) (東京都立大学) (神奈川大学) (お茶の水女子大学)

＜問題と目的＞学童クラブにおいて自閉性障害児を受け入れた場合の保育方法と成果について検討する。自閉性障害児は一般に集団を好まず、時空間的に整わない場に適応しにくいという特徴を持つ。学童クラブはまさにその不利な条件にあり、彼らはクラブ内で孤立して安定を保つ状況に陥りやすい。そのため彼らを受け入れた場合、学童保育の特徴である主体性・自発性の尊重（子ども自身の好みと選択の優先、心身の保護安定の保障）と指導性の発現（大人からの働きかけ、発達保障）という両価性にある問題がより対立して表われやすく、そこに現場の指導員はしばしば深いジレンマと困難を抱える。そこで、安定性の保障から子どもが変化する芽を出していることをいかに捉え、どのような働きかけによってクラブという場に見合った統合保育が実現するのかについて、実践の分析から保育のとりくみと子どもの変化を整理、分析する。＜方法＞公設公営の学童クラブ（児童館併設）において筆者らが巡回相談にあたった自閉性障害児7ケース（98年と99年の2年間にほぼ1学期につき1回の巡回相談を行い、1年以上の発達経過を把握できるケース）について相談基礎資料と相談記録に基づいて整理分析する。ケースA～Eは軽中度、FGは重度の自閉性障害児。

＜結果＞1、孤立を崩して指導員との関係形成へ：障害の程度に関わらず、子どもは一人の世界の中で自己を安定させるもの（こだわり、一人遊び、常同的行動様式）を持ち、クラブにおいては集団の中に紛れこみむしろ手がかからない場合が多い（ケースBDFG）。ADLがよく形成され規則を遵守する傾向があるとさらにその傾向が強まる（B）。安定をいったん切り崩しながらも指導員が個別に粘り強く対応することで関係が形成される（全）。2、対応の積み重ねから関係を深める：要求を出せる関係へ（全）/指導員が怒りや悲しみの感情を受け止める相手になる（BCD）/“やっていい？”と指導員に自分の行為の是非を視線で参照したり”できたよ”と指導員を見て感情の共有を求める3項関係へ（ABCD）/行動や身振りやことばによるやりとりへ発展（ABCDE）/指導員の支えにより共同性のある象徴遊び（料理の本から食べるふり、作る工程のふりをする。CD）や創作活動を行う（ストーリーのある絵を描く、粘土の製作。BCDE）。3、多様な職員との関係を作る：館内の多様な職員の働きかけにより、子どもは相手

により要求と自己統制の程度と感情表出を変える。それを「人を見分けてわがままを出す」として抑制するのではなく対人関係の広がりとして捉える（ABD）。4、気に入りの他児への関心をすくいあげる：特定子どもへの興味を尊重し相手の子どもの理解を促し関わりを援助する（ABDE）。5、他者への興味や関わりへの欲求を表わす独自の方法を理解し対応する：いたずら（他者への漠然とした関心と同時に恐怖を表わし逃げ回る）を頻発し全職員を手こずらせていたが特定の指導員が身体遊びを根気よく続けたことで行動は消失（A）/職員の貴重品をわざと壊した行動にその人への関心と解釈して対応（B）/明らかに他者との関わりへの要求としての軽い挑発行為（悪態、いたずら）には注意や禁止ではなく子どもの本意に沿って対応する（CDE）/他児への挑発から生じるトラブルには他児との遊びを作ることで対応（E）。6、集団への興味を表わす独自の方法を理解して集団参加を促す：見ていないようで当番の模倣をする（A）、遊びやしぐさの延滞模倣をする（B）、集団をそれとなく見ながら混じって遊び子どもからの指示にはスムーズに従う（C）、館の行事をいつの間にか知り自主的にやってくる（D）、他児の動きにつられるように入っていく（F）等といった行動を集団参加につなげる。7、クラブの生活習慣やクラブ独自の子ども文化に位置づく遊びや行事の利用で活動を広げ、周囲の子どもからも認めさせる：「駒検定」から駒遊びができるようになり活動にまとまりが生じ指導員との間に急速にコミュニケーションが発展（A）/工作室での多様な道具の使用と児童館のグループ工作活動から、多様な職員との関係が発展し生まれて初めて造形創作活動を行う（B）/一輪車を上達させ指導員への身体接触中心の活動を変える（C）/芸術的才能を行事に活かして他児の賞賛を得させ、他児との関係や自我の育ちに活かす（E）/他児たちに流行っていた編物にとりくみ出来るようになる（G）/当番や役割をひとつひとつこなすことで活動と関わりを広げる（G）。＜考察＞1～7は必ずしも全ケースに共通性はなくまた7が最終成果ではない。周囲の人的環境や子どもの年齢の変化によっては各々繰り返し求められるとりくみと思われるが、自閉性障害児独自の心の表現方法を理解し、クラブの特徴を活かしたとりくみを長期的に行うことにより見えにくいながらも一定の成果として期待できる。